

令和元年 5 月 11 日（土） 10:00～16:00

研修会名：人材育成 部下ができれば身につけたい指導術  
－「ほめる」と「しかる」の使い分け－

講師：名越 民江 先生 東京医療保健大学和歌山看護学部教授

日時： 参加者：52名

今時の若者の特徴、社会人基礎力の育て方、仕事で求められるコミュニケーション能力の伸ばし方、ちょっと困った部下への指導等ねらいに沿った講義内容でした。

#### 講義の合間にグループワーク



今時の若者の特徴は！！

・・・

現状を思い起こしながら  
話し合い、共感することが多  
くあった

受講後の感想として、

- ・ 新人指導において、若者の傾向や育ってきたバックグラウンドの影響があり、それと自分たちも対応していく必要があると再認識できた
- ・ 先生も普段からすごくジェネレーションギャップを感じられているということがとても伝わってきて安心した
- ・ 笑いあいの研修でとても楽しく、リフレッシュになった。他施設の方とも話せて共感できることも多く、いい機会をもつことができた
- ・ チャーミングな名越先生でしたので、1日楽しく興味深く学習時間がもてた
- ・ 具体的にとっても分かりやすかった。大人の教育、新人、若い人の特性の共有、次回のプリセプター会の指導にも活用します
- ・ 年上の部下、勤続年数の長い部下やキャリアプラト状態にある人への指導をもう少し聞きたかった

今時の若者の特徴を、社会や価値観などの変化などを理解することで、具体的な関わりかたについて学習することができたと思います。

今後、より効果的な人材育成に活かしてほしいと願っています。

令和元年 5 月 28 日（火） 10 : 00 ~ 16 : 00

研修会名 : ステップ 2 深める看護研究・クリティーク

講 師 : 辻 あさみ 先生 和歌山県立医科大学保健看護学部教授

日 時 : 参 加 者 : 54 名

研究を深めていくためにクリティークを行うことができ、論文の書き方が理解できるをねらいとした研修でした。応募定員 50 人を超える参加者で、ステップ 1 と連続しての受講生も複数人いました。

午前中の講義では、科学的研究のクリティークの役割は、間違いを探すことではない、よいクリティークとは、適切と不適切、長所と短所を客観的に指摘することであるなど、丁寧に講義いただき、理解しやすかったと思います。

午後からは、例の論文に基づいて、個人で論文を読みクリティークし、次にグループに分かれて、「タイトル」「はじめ」「研究方法」「結果」「考察」「結論」「引用文献」について実際にクリティークを行いました。

最後に辻先生は「一つの研究には見えない苦勞が多く含まれていることに配慮する」とおっしゃられていましたが、研究を行ったことのある方は、実感されたのではないのでしょうか。

辻先生は、はっきりした話し方で、話すスピードも丁度良く受講者はとても聴講しやすかったと思います。



研究の動機となった目的から最後の考察・結論にいたるまで、話の流れが論理的に、一本の線につながっているかが重要です

